

Cache 2008 と Windows Server 2008 への更新時における

Web アプリケーション継続利用の経験

春木康男、大櫛陽一

東海大学医学部基礎医学系

目的

地域における医療連携を支援するために、我々はこれまでに地域医師会を中心として情報共有を可能にするネットワークシステムを開発してきた(1,2)。開発は1990年代の後半から行っており、サーバーの更新が行われたシステムもある。今回、神奈川県茅ヶ崎医師会のサーバーが更新され、OS も変更された。これに伴う Cache の更新とアプリケーションの移行経験は、同様のサーバー更新を行う際の参考になると思われるので紹介する。

対象と方法

サーバーOS は Windows 2000 Server から Windows Server 2008 (SP2)に世代交代した。M 言語システムは Cache 5 から Cache 2008.2 に更新した。Web アプリケーションは WebLink を使用し、HTML ソースに記述したスクリプトでデータベースを操作している。

事前チェックを兼ねて東海大学の学生教育用システムでも同様の変更を行った。こちらには CSP アプリケーションも含まれている。

結果

OS の更新に伴い、IIS マネージャの設定方法に変更があった。サーバーの役割に Web サーバー (IIS)を追加する際には、「ISAPI 拡張」をインストールしておく必要がある。WebLink シ

ステムマネージャを動作させるためには、ハンドラマッピングに mgwms32.dll を追加する。SSL を利用するアプリケーションのフォルダでは、ハンドラマッピングで任意の拡張子を指定して追加する必要がある。

Cache インストールの際、WebLink はデフォルトでは導入されないので、カスタムで指定しておく必要がある。なおその際にも WebLink Developer のルーチンは含まれていないため、追加でインポートする必要がある。WebLink アプリケーション自体は独自暗号化データベース(2)を含め、変更なく移行可能であった。

CSP アプリケーションは、構文チェックが厳密になったことに起因するいくつかのエラーが発生したので、修正した。

考察

Cache による Web アプリケーションは、サーバーOS および Cache システムを更新してもそのまま稼動可能であり、長期間継続して使用するデータベースシステムに適している。

参考文献

1. 須谷聡史、大櫛陽一、他：広域医療連携のための医師会イントラネット。医療情報学 20 (Suppl. 2) 728-9, 2000
2. 春木康男、大櫛陽一：地域医療ネットワークのための暗号化パスワード・暗号化通信・リアルタイム暗号データベース。医療情報学 25 (2) 75-80, 2005